

昭和三十四年五月十七日 和敬塾塾祭記念式典祝辞

「塾生に告ぐ」

皆さん今日は大変お目出度い事でございます。

四周年の当塾の記念式でございますが、四年とか三年とかという事は今の時代では短く考えられますけれども、此の塾にとつては或いは今後十年間の或いは百年間の成長の基礎になる四年間であつたかも知れない、こう考えるわけでありませう。実は学校生活、これは我々小学校から大学を出る迄十六年というのが学生生活なんです、その中の最後の仕上げを、社会人として立つ前の二年なり四年なりを此処で過す事になる。これが人格を形成する最後の一番大切な学生生活、人格形成の最後の仕上げではないかと思ふわけなんです、その意味で此の和敬塾は、創立の時から及ばずながら御相談を受けて犬馬の勞を致したのであります。

此の数年間に色々の変化が御座いましたけれども、次第次第にいい方に向つて進みつつあり、同時に理事長以下皆様の御尽力が実を結ぶようになった。この実を結ぶことはこの在塾中に結ぶのでなくして将来の皆さんの人生に於て、益々此の塾に居つた事の歴史を通じて世の

中でどれだけ役立つかという実の結ばれ方があるんだと私は考えるのであります。

私自身、丁度学生時代、早稲田大学に居りました間、あそこに塾でなく寮舎と云つて居りましたが、木造の甚だ粗末な寮舎が鶴巻町にありましたが、二五〇人位が収容されて居りました。そこで寮生活の大切さを味うという意味でなかつたかも知れませんが、その時の下宿の不便を救済するという意味でありました。そこで卒業する迄、卒業の一年前その寮舎が廃止されましたから外へ出ましたが、約三年間そこで日常生活を過しました。学校で授業を受け、また図書館で勉強する時間が十時間、それ以外の十四時間を寮生活で過して来たものですが、それを追憶致しまして、私自身の何等か人格形成に役立つものの中には、寮生活が非常に重要な意味を持つて居つたように今考えて居ります。それは現に卒業後に於ても中学時代の友達、又は大学時代の友達色々ありますが、寮の生活を共にした人達は卒業後五十年に相成りますが、未だに交際を続けて居りますばかりでなく月に一回

日本化薬社長 原安二郎先生

同窓会を開いて居ります。そのうち寮生活をした人達が皆七十才以上でございますが、これら生き残りの者が三十数名の中十五、六名居ります。此の親しみ方はまるで兄弟のような感情を持つてその子弟の結婚又は家庭の色々の経緯をお互いに知り合つて相助け合い、自然にそういう気持が湧き出て居ります。私自身何等か人間生活の上に於いて精神的に育成されたものがあつたとすれば、私の早稲田大学の鶴巻町の寮生活は、その建物とか設備とかというものに就いては、その時代でございますから甚だ粗末ではありましたが、今から考えれば茅屋（ぼうおく）陋屋（ろうおく）といったようなものでありましたが、それから得た貴重な体験は今も忘れ難いものがあるのであります。

私はこういう事を考えて居ります。今イートン大学を出られたウェリントン卿の話が理事長さんからございましたが、これは例にしては小さ過ぎますけれども、維新頃の松下村塾、これは僅か十人足らずの人達を収容しましたが、

この間にたまたま長州藩というものの強さも
ありましたが、相当偉い人格者を出して居りま
す。学問の力とか、教養の体系の中に於て人を
こしらえるという事が結局一番大切な事では
なからうかと、こう思います。そういう意味に
於て此の和敬塾がそういう役立ちに、私自身の
実験またはその他の歴史的な結果を見まして
もそれが云えると思うんですが、そういう風にな
っていただく事を希望したいと斯様に考
えて居ります。

今申し上げたように此の学問というものは
二十四時間これに費します。或る場合には睡眠
時間の間でも考えて居るといふ人もあるの
ですが、その間にあつて人間は絶えず人格の形成
とか或いは人物を作るとかいう事は二十四時
間中に、学科以上に絶えず作られなきやいかん
その啓発は、切磋琢磨は、やはりお友達即ち同
年輩の学部を異にしている友達、或いは学校を
異にしているお友達、或いは府県を異にしたお
友達、近頃は多くなりましたが、この塾にもあ
ろうと思ひますが、国際的に他の国の人達も日
本で学問をおさめる学問の交換ということでも
考えられて居ります。そういう意味に於て、
非常に広い意味の国際的の事情の慣習とい
う中にもおこなわれるわけなのであります。

ただいま理事長さんから塾長のお話がござ
いしましたが、塾長も大切にございするけれど

も、皆さんの間の切磋琢磨が非常に大切であり
ます。これをお考え願ひたい。共同生活の中に
は御自身だけの考へで、自分だけの利害を考
へては進めない。或る場合にはこれを抑えて行
なければならぬ。そして、自分に抑える事を
他人も抑える事によつて、お互が社会生活とい
うものの完成を期するわけなのであります。こ
れがやはり皆様が社会人となつて行かれる場
合の知らず知らず頭に泌み込んだ一つの立派
な教養になるのであります。これが塾生活に於
て皆さんが獲得せられるところのものであり
ます。

現在の公務員でもまた実業界でも、入社試験
に何時も学科に優が幾つあるとか、良が幾つあ
るとかいうものを先ず一番に採り入れる。その
次には入社試験と称して一時間或る場合には
二、三時間で一生の登竜門を決定するやり方は
非常に不完全なやり方ではないかと私は思つ
て居ります。それには学校側からも色々な御推
薦もございしますが皆さんの学問がどの程度に
進んでいるか、他との比較はどうであるか、と
いう事は学校の成績表がその一部を示す事にな
りますが、然し或いは病気の場合もあるし、
或いはクラブ活動で少し時間をとられたとい
う場合もあるし、或いは家庭の事情もあるし、
そのため偶々学校の成績に良い結果を持たな
かった場合もあると思はれるのでありまして、

成績の外に一時間乃至二時間の受験によつて
その人の生涯を決すると、希望した職場には入
れない。それは大問題だと思ふんです。

それに加へるに、各大学で行われて居ります
ゼミナールに指導教授が居られる筈であり
ますから、その人物をよく見て、学問上の力以
外に人柄がどうかであるか、或いは日常生活がど
うであるかという事を添え書きしてもらふ事
が大切であります。

然し学校によりますとそのゼミナールの形
成が仲々行われていない。先生の数と学生の数
とのバランスが取れていない。学生の数が多く
て先生の数が少ないという場合があつて、なか
なかこれに入れない場合もございしますが、此度
はこういう塾制度のものがございまして、これ
によつて塾長さんなり、又は塾の夫々の寮舎の
監督者から御意見を伺つと、あの人はこういう
人であるという事が出来ます。又は塾生中でそ
の人物に就いてその話し方或いは見方を聞く
という方法もあると思ふのであります。私は
学生を推薦する場合に先程申上げた学校の成
績以外に、ゼミナールに入った場合はゼミナ
ールの指導教授、またゼミナールがない場合でも
幸いに先生達の特別な見方があれば大変結
構ですが、その上に斯くの如き塾生活をされた
ら塾の日常生活をやはり推薦状の中に盛り込
む、或いは進んで受験する方の採用者の側の当

事者が聞きに来る。そういう意味から云って当塾は恐らく将来は和敬塾に居ったからあの人は信用すべき人だ、和敬塾に三年間も居って和敬塾の推薦が斯くの如きであつたからよかつた。学科と或いは偶然的に得た入社試験の成績等というものと較べて、成績が悪くても塾からの推薦を見て大変いい人だ、こういう人を探るべきものだという基礎になるような塾が発達する事を私は希望するわけでありませう。

これは入社試験の場合も申上げましたが、或いは新しく公務員になれる方々の場合も申上げましたが、ところがもつと大きな問題は、その後の将来に於て和敬塾に居ったからこういう考え方を持っている。社会人としては我々は教壇以外に覚えた大切なものが自然に自分の身に積み重ねて居ったものがあるという風に皆さんが此の塾生活に於て立派な効果をおぼえて戴きたい。

先程も申上げた様に塾生活は一日の二十四時間をここで費すことになるわけでありませうから、東京の方が家庭から通つて居るよりもこういう塾に居られる方が人格形成に役立つたというようになるようにしたい。皆さんが和敬塾に居って、人として立派な形で進む事が出来たこと、或いは立派な日本人になり得たこと、立派な社会人になり得たこと、これは実に和敬塾のお蔭だ、そういうような事を追憶し、同時

にこの同時代者は兄弟、兄貴だ、弟だという感じを持ち得られるように皆さんが効果を挙げて戴くようにする事が大切です。これがばらばらに下宿生活をして居って食事の事、或いは寒い時は暖房の事等に非常に時間を取られる等と比較して幾らか規律正しい、そして心に規律を与える塾生活また環境は普通の家庭よりも立派だといつていい位な、何百年の歴史をもつ此の庭園に、そして充実した樹木、建物は近代的で皆さんの生活を賄なうに充分な施設を持つている。あらゆるものが揃っている間に、松下村塾又は元の早稲田大学の鶴巻町の寮舎から見れば環境や施設は実に立派なものでありますから、これを基として今申上げたような目的達成が図られなかつたら、欠点は諸君にありとこう私は考えるのであります。

諸君自身が精神を形成する事は御自身の力である。ここで人間を育成する為の形、姿は揃つているのでありますから、精神、魂は皆さんがお入れ願ひたい。

自分の少しばかりの希望を申上げまして諸君の御奮励を期待するわけでありませう。元気に健康に注意されて同時に人格の完成に力を尽されん事を切にお祈り致しまして御祝辞旁々希望と致します。

(塾理事)

※当DVD収録のご講演録には、現在では不適切と思われる表現が用いられている場合がございますが、講演時の時代背景等を尊重し、当時のままといたしました。